



# 利根山光人

Toneyama Kojin

第82号 平成26年 5月30日

## 記念美術館通信

Memorial Art Museum News Letter

〒024-0043 岩手県北上市立花15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808



サイカチほろき



野草を摘む

ながねしょうじゅの  
長根正樹(昭和6年～平成24年)は北上市臥牛出身で、花巻農学校を卒業後、県内の公立小学校教諭となり、旧田野畑村立沼袋小学校に校長として赴任したところから切り絵を始めました。生活そのものを表現したいという制作意欲にかられ、平成24年には計74作品にもなる「おらわらしの頃の山里のくらしから」春夏編と秋冬編の二部作を出版。今回はその一部を展示します。植物や昆虫を採集した少年時代の経験や、里山の農村風景、そこで生活する人々など、郷愁溢れる作品、30数点を御覧いただけます。

生活そのものを表現したいという制作意欲にかられ、平成24年には計74作品にもなる「おらわらしの頃の山里のくらしから」春夏編と秋冬編の二部作を出版。今回はその一部を展示します。植物や昆虫を採集した少年時代の経験や、里山の農村風景、そこで生活する人々など、郷愁溢れる作品、30数点を御覧いただけます。

平成26年度企画展  
長根正樹展 — 切り絵で描く郷土の歴史 —  
会期：5月31日(土)～8月28日(木)



天壇

### 〈利根山光人画伯との思い出〉

祖父が亡くなった後も祖父との思い出は増えていく。世界中を周った祖父に憧れ、私も高校卒業後世界一周の旅に出た。祖父が訪れた場所を訪れ、スケッチが描かれた場所に立ち、数十年前祖父がどんな想いで観ていたのか考えるのが好きだ。メキシコのマヤ遺跡群にも中国の天壇公園にもパリの美術館にも祖父がいた。もちろん北上にも祖父はいる。インドの作品も沢山あるので、いつかインドの遺跡群にいる祖父に会いに行きたい。

### 〈好きな画伯の作品〉

#### 「旅先スケッチ群」

世界中でスケッチした絵が祖父のアトリエには沢山ある。もっと多くの人たちに観てもらいたい。景色を忠実に描くのではなく、その場所に立ったときの驚きや感動・哀愁といった感情までが伝わってくる。そんな祖父のスケッチが好きだ。

尾崎健人さん(利根山光人の孫)

画伯の名前の「人」の字をもらい、現在は、画伯のように世界を飛び回り、途上国開発の現場で開発コンサルタントとして働く。



タスコ

## 「遺したい北上の風景画」



展勝地男山から北上の街を描いた。

遠く奥羽山脈から流れる和賀川と、悠久の流れ北上川の合流する街である。

河畔の展勝地は、焼石連峰に未だ雪の残る4月中旬から桜が咲き始める。

東北の人気お花見スポットランキング第3位。

「ひとつ寝てまたひとつ寝て

春を待つ」

中野 光雄さん

(利根山光人記念美術館光の会)

### —「遺したい北上の風景画」募集—

応募希望の方は、北上市まちづくり部生涯学習文化課 (0197-72-8304) までお問合せください。

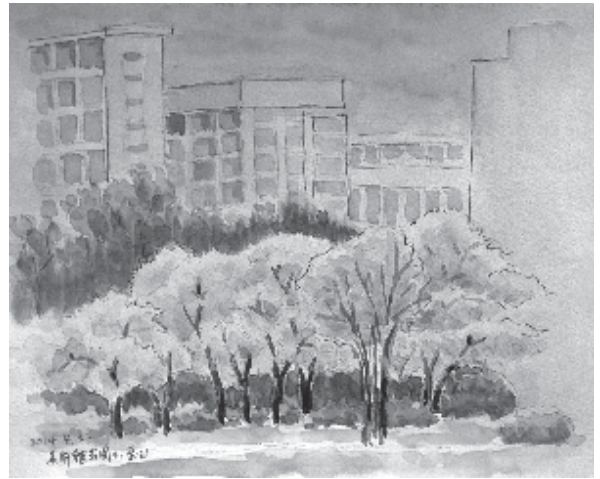
## 「美術館の楽しさ」 その1

4月1日の開館日。館内に入ると張り詰めた空気と圧縮されていた空間を感じました。

「すげ！すげ！元気もらった」と、興奮冷めやらず、二度三度挨拶をして帰られた方がいました。絵との出会いに激しく魂を揺さぶられ、自分でも気付かずにいた自分を発見して感動が増幅したのかかもしれません。感覚が鈍麻した、トンマな私も感動の御裾分けに預かり唯嬉しくなるのです。何処からか利根山氏の快活な笑い声が「カラカラ」と聞こえてくるのです。そんな美術館です。

高木 俊士

(利根山光人記念美術館専任研究員)



美術館玄関より望む

## ＝美術館・展示会巡り＝

### 2. 高倉勝子美術館「桜小路」



美術館外観

北上川で結ばれる宮城県登米市は歴史の町である。教育資料館、水沢県庁記念館、警察資料館など「明治のロマン漂うまち」として案内している。

俳句の仲間たちと登米町を訪れた。歴史の町を見るためだったが、駐車場の向かいに美術館があるのに気が付いて、私は別行動で美術館に向かった。

展示作品は日本画とあったので躊躇したが、入館して驚いた。素晴らしい作品だった。心安らく作品だった。

「ふと気がついて足を止め、何気なしに作品を見る。じっと観る。愚直一筋、只、ひたすらに描く。(中略) 奥山育ちの私には、都会風な洗練された作品は一点もない。」

—高倉勝子画集「悠・風・流」より—

中野 光雄さん

(利根山光人記念美術館光の会)



花の中



花冠



黄衣